

「 今、思うこと 」

広島県 呉市立仁方中学校 1年 藤原 梨瑚

2018年、その時私はまだ小学3年生だった。この年の7月、思いもかけない豪雨災害が呉市を襲った。激しい雨が途切れることなく降ったのを今でも忘れられない。

裏に山を背負う私の家は、いつ土砂災害に襲われてもおかしくなかった。幼かった私はとても不安で怖かった。しかしその反面、防災リュックを準備していたので、「大丈夫」と、雨が強くなるにつれて何度も自分に言い聞かせていた。また、家族と、避難場所を話し合ったり、リュックの中には、食料・水・日用品などを準備していたので、少し安心した気持ちを持っていた。

幸い私の家は災害に見舞われることはなかったが、祖母の家が浸水してしまった。トンネルが土砂で通行止めになってしまっていたので、祖母の家の後片付けにすぐに行くことができなかった。やっとのことで父と母が行けたのは3日後である。私も1度行ってみたが、祖母の家には泥水が家の1階にまで入り込み、下水の臭いだろうか、なんだか臭いにおいがして、私はとても気分が悪くなってしまった。後始末は簡単ではなかった。畳や土砂を運ぶなどかなりの重労働だった。そのため、父も母も何度も祖母の家に通い、汗水流して掃除をした。母は、「災害が起こるなど思ってもいなかった。まさか自分の身近で起こるなんて。それに、こんなに後始末が、大変だなんて思わなかった。」と言っていた。豪雨災害、だれもが聞いてはいるが、想像していたものよりもずっとひどく恐ろしいものだったと分かった。

そんな体験もあり、私の家では毎年1回は避難場所や安否確認の取り方、食料や水などの準備を確認したりしている。そして、あの時のことを忘れないために、災害時のことや防災について、家族で何度も話題に出して話している。

あれから4年経ち、中学1年生になった私は、つい先日、学校で防災教室の授業を行った。私は初めて、自衛隊の皆さんや広島県の砂防課の方から防災について話を聞いた。その中で、大事ななと思ったことが二つある。

一つ目は、「自助」という言葉の意味だ。自分の身は自分で守るということだ。いざ災害が発生すると、自分で何とかしようとしても、簡単にはできなくなる。防災セットなど身近になればすぐには対応できない。もし、災害がひどい場合、家に帰ることができなくなり、私たちは避難所での生活をしなければいけなくなる。もし1週間も避難所で生活しなければいけなくなると、食料や日用品など、たくさんものが必要になるだろう。だから、日頃から必要なものを準備しておくことが大切だということだ。また、アレルギーや自分の健康状態を考えて、医薬品を準備するなど、普段から考えておく必要があるということだ。

二つ目は、家族との安否確認の取り方を話し合っておくということだ。もしも、一人で家にいるときや家族と離ればなれになってしまった場合など、どうやって家族と連絡を取るか話しておく役に立つ。

最近、全国的に雨の降る量や降り方がなんだか変だと言われている。線状降水帯が発生したり降る量がものすごく多い。一気に大量の雨が降り、いつ大きな土砂災害が起きてもおかしくない。雨が降る度に、また豪雨災害などが起きるのではないかと心配になってくる。思い出したくはないが、現実には現実だ。だから、何も起きていない今だからこそ、できることをしておく必要がある。私の家では、4年前の経験から、準備したり話し合ったりしているが、たとえこれらが無駄になってもいいから、何も起こらないで欲しいと思う。